

# 平成17年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録から)

財団法人 尾瀬保護財団

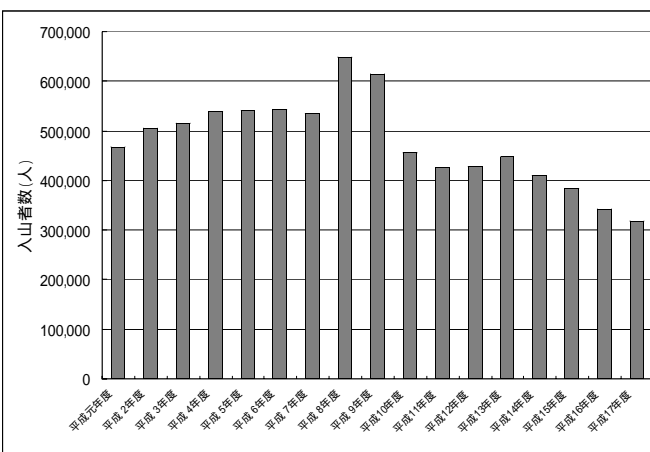
## 目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	1
(1)	年別発生状況	1
(2)	地域別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	2
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	3
(6)	年齢別・男女別発生状況	3
(7)	傷病者の居住地別発生状況	4
(8)	グループ人数別発生状況	4
(9)	傷病事故の通報状況	5
3	救助活動	5
(1)	救助隊出動状況	5
(2)	ヘリコプター活用状況	5

## 1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は5月大型連休後から10月中旬までであるが、同期間で環境省が各登山口に計測するセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者数は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半を推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬紹介により60万人台前半に上昇した。しかし平成10年度には不景気と週末の悪天候から約46万人に減少し、その後も40万人台で推移してきたが、平成17年度には平成元年からの計測後最低の約31万8千人という結果となった。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9
平成17年	317,847	93.1



尾瀬の入山者数の推移 (環境省のデータから作成)

## 2 傷病事故の発生状況

### (1) 年別発生状況

平成17年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）職員が出動した傷病事故は、59件発生した。

年度	区分	発生件数 (件)	遭難者 (人)			
			死亡	行方不明	負傷	計
8年度		16			16	16
9年度		33	2		31	33
10年度		49	4		45	49
11年度		55	1		54	55
12年度		70	2		68	70
13年度		46			46	46
14年度		51	2		49	51
15年度		33	1		32	33
16年度		46	1		45	46
17年度		59			59	59

(2) 地域別発生状況

地域別では鳩待峠～山ノ鼻、尾瀬ヶ原がそれぞれ18件(30.5%)と最も高く、  
 ついで至仏山の8件(13.6%)であった。平坦な木道である尾瀬ヶ原での事故が、  
 鳩待峠～山ノ鼻と同様に発生しているということは、入山者の意識・注意力の欠如に  
 よるところが大きいものと考えられる。

地域別	区分	発生件数 (件)	発生 比率	遭難者(人)			
				死亡	行方不明	負傷	計
鳩待峠～山ノ鼻		18	30.5			18	18
尾瀬ヶ原		18	30.5			18	18
三条ノ滝		0	0				
大江湿原・沼北岸 (VC周辺を含む)		3	5.1			3	3
尾瀬沼南岸		5	8.4			5	5
沼山峠～尾瀬沼		0	0				
大清水～尾瀬沼		0	0				
尾瀬沼その他の地域		1	1.7			1	1
燧裏林道		0	0				
アヤメ平		0	0				
至仏山		8	13.6			8	8
燧ヶ岳		0	0				
不明		6	10.2			6	6
合計		59	100.0			59	59

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、依然として木道上での転倒事故が71.2%と圧倒的  
 に多く、木道整備区間が多い尾瀬地域の特徴を示している。木道は濡れていると滑り  
 やすく、天候との関係も大きいと思われる。

原因別	区分	発生件数 (件)	遭難者(人)				
			死亡	行方不明	負傷	救出	計
木道上の転倒		42			28	14	42
歩道上の転倒		6			4	2	6
病気		9			4	5	9
疲労・低体温		0					
落石		0					
道に迷い		0					
雪崩・雪渓崩落		0					
落雷		0					
徒渉失敗		0					
その他		2				2	2
不明		0					
合計		59			36	23	59

(4) シーズン別発生状況

シーズン別では春山、秋山が夏山より多く例年とは異なる傾向を示した。

区分 シーズン別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
春山(4・5・6月)	22			14	8	22
夏山(7・8月)	15			7	8	15
秋山(9・10・11月)	22			15	7	22
合計	59			36	23	59

(5) 月別発生状況

月別発生では6月が20件(33.9%)と最も多く、次いで10月が14件(23.7%)、8月が9件(15.3%)の順であった。

区分 原因別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
4月	0					
5月	2			2		2
6月	20			12	8	20
7月	6			3	3	6
8月	9			4	5	9
9月	8			4	4	8
10月	14			11	3	14
11月	0					
合計	59			36	23	59

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢比では10～30代が16.9%、40代以上が74.6%で、入山する年齢層に対応した結果といえる。男女比では女性が6割強であり、特に50、60歳代の女性の占める割合が高い。

区分 年代別	男性(人)					比率 (%)	女性(人)					比率 (%)	男女計 (%)
	死亡	行方不明	負傷	救出	計		死亡	行方不明	負傷	救出	計		
10代				1	1	4人			2		2	6人	10人
20代			2		2	21.1			2		2	15.0	16.9
30代				1	1				2		2		
40代			1	1	2	15人 78.9			2		2	29人 72.5	44人 74.6
50代			3	3	6				7	10	17		
60代			2	1	3				6	4	10		
70代以上			2	2	4								

不明					0	0.0			5		5	12.5	8.5
合計	0	0	10	9	19	100.0			26	14	40	100.0	100.0
比率	32.2%						67.8%						

(7) 傷病者の居住地別発生状況

傷病者の多くは、東京都・埼玉県を中心とした関東地方居住者で、全体の6割を占めている。また北海道や関西などの遠方からの入山者による事故も少なくない。

区分 都道府県別	死亡	行方不明	負傷	救出	計
北海道			1		1
宮城県			1		1
福島県				1	1
茨城県			1	1	2
栃木県			2	1	3
群馬県				3	3
埼玉県			6	4	10
千葉県			3	3	6
東京都			5	3	8
神奈川県			4		4
新潟県			3	1	4
長野県			1	1	2
岐阜県			1		1
愛知県			1	1	2
三重県			1		1
京都府			1		1
大阪府			1	1	2
兵庫県			1	1	2
奈良県				1	1
岡山県				1	1
不明			3		3
合計			36	23	59

(8) グループ人数別発生状況

傷病者からの聞き取り内容として記載漏れが多く、データ数が揃わなかったため、割愛した。

(9) 傷病事故の通報状況

通報状況は本人がビジターセンターへ移動しての口頭での通報が34件(57.6%)が最も多く、次いで山小屋や救助隊からの出動要請が20件(33.9%)であった。

通報別	通 報 者 ( 件 )						比率 (%)
	本人	家族	同行者	他人	山小屋 救助隊	計	
口 頭	34	1	2	1	20	58	98.3
携帯携帯							
電 話					1	1	1.7
アマチュア無線							
その他無線							
不 明							
合 計	34	1	2	1	21	59	100.0
比 率	57.6	1.7	3.4	1.7	35.6	100.0	

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

ビジターセンターでの対応が35件(55.6%)と多いものの、ヘリコプターや救急車など消防を要請した件数も16件(25.4%)と非常に多かった。

年度	発生件数 (件)	消防	救助隊	ビジター センター	一般	合計
平成8年度	16	2	4	12		18
平成9年度	33	12	20	10		42
平成10年度	49	8	33	16		57
平成11年度	55	9	28	27		64
平成12年度	70	11	18	45		74
平成13年度	46	9	21	22		52
平成14年度	51	9	14	31		54
平成15年度	33	8	10	19		37
平成16年度	46					
平成17年度	59	16	12	35		63

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故59件のうち12件(20.3%)にヘリコプターを依頼し、12人を搬送した。例年と比べて多い結果となった。

年度	依頼件数 (件)	負傷者救助 (人)	病人等救助 (人)	行方不明 (人)	遺体収容 (体)
平成8年度	2	1	1		

平成9年度	5	3	1	1	
平成10年度	3	3			
平成11年度	5	5			
平成12年度	7	5	1	1	
平成13年度	6	6			
平成14年度	6	4	1	1	
平成15年度	6	4	1		
平成16年度	7	7			
平成17年度	12	8	4		